

心の原風景 —我が母校—

佐渡市立内海府小学校 内海府中学校

平成24年度小・中連携校として新たな歴史をスタートさせました。現在の児童数は14名・生徒数は5名です。地元地域と密着した活動を展開しています。

4月には、旧内海府小学校のグラウンドにある「さつちゃん」の愛称で呼ばれている桜の大きさを眺めながら、地元で採れた野菜や魚を調理した給食を外で食べる「お花見給食」をします。百年きれいな花を咲かせてくれる「さつちゃん」の下で食べる給食は最高です。全校が楽しみにしている行事の一つです。また本校の自慢に自校給食があります。サザエご飯、寒ふり、ふぐ、アワビなど給食の域を超えた料理が出ることもあります。



6月には、大野亀台地で「カンゾウ祭り」が行われます。4月に小中学生が定植作業をお手伝いしたカンゾウが見事な花を咲かせます。当日は、小学生がマーチングの演奏を披露し、中学生は代々伝わる海府太鼓を演奏します。また、鷲崎鬼太

鼓保存会の皆さんのご協力でも鬼太鼓にも参加したり、亀翔会の皆



さんのご協力で民謡を踊ったりして参加します。中学生は、海府地区の自然や文化について大野亀周辺を散策しながらガイドをします。このガイドボランティアは、12月の寒ぶり大漁祭りの会場でも行っていますので、ぜひご利用ください。

10月には、小中海府地区合同運動会を行います。内海府対鷲崎対外海府の3チームで競う地域運動会は各地域本気で競い合います。小学校は、紅白2チームで、競技やマーチング、応援合戦などを行います。中学生は、運動会の放送や記録、得点を担当し、さらに種目にも参加します。中学生が小学生に教えて全員で踊るよさこいソーランは、地域の方もとても楽しみにしています。今年も楽しく、元気な運動会になることでしょう。

他にも地域のご協力のもと、さまざまな行事や活動、学習を行っています。青い海が見える新しく、きれいな校舎と元気で素直な子どもたち、豊かな自然と協力を惜しまない地域や保護者に恵まれた素晴らしい学校です。ぜひ一度おいでください。

◆教育委員会学校教育課
(両津支所内) ☎23-4898



佐渡をジオパークに

ジオパーク、推進日記

27

「ちきゅう」が佐渡沖に滞在中!?

小木半島の沖で毎晩、盆踊りの提灯やぐらの灯りが目撃されています。実はこの灯り、盆踊りのやぐらではなく、地球深部探査船「ちきゅう」の約70mの掘削やぐらに設置された作業灯だったので。

海洋研究開発機構(JAMSTEC)が運用する「ちきゅう」は、巨大地震の発生域や、人類が未だ到達していない地球の内部まで掘り進むことができる探査船です。そんな日本が世界に誇れる「ちきゅう」は、佐渡の南西沖約30kmで海面から約1100mの深さにある上越海丘からさらに海底を2700m掘り進み石油や天然ガスを取り出します。埋蔵量が国内最大級の可能性もあり、とても注目されています。

人類は未だかつて地下深部に到達したことはありません。私たちは自分たちが住む地球の内部で何が起きているのか、実はよく知らないのです。地球の内部を対流し、大陸の移動や火山活動など地球の環境変動の原動力として、重要な役割を果たしていると考えられているマントルは、黄緑色の鉱物「かんらん石」を主な構成成分とする「かんらん岩」であ

ると考えられています。地下深くにあるため、地上で観察することがなかなかできない岩石ですが、小木半島では「かんらん石」を観察することができます。たけのこ岩の周りをよく観察してみてください。とても小さいですが、きれいな緑色のかんらん石を見つけることができます。ちなみに、このかんらん石は、8月の誕生石「ペリドット」としても有名です。なお、小木海岸は国の天然記念物および名勝に指定されているため、採取等の行為は法律で禁じられています。

地球の内部には、人類が解明していない未知の情報が詰まっています。ただ、私たちが暮らしている佐渡には、地上にいながらにして日本海や島の成り立ちを示す化石や岩石などが身近にあり観察することができます。島全体が博物館といえるのです。この無造作ながら貴重な自然の展示物を、夏休みを利用して家族で鑑賞旅行に出掛けてみてはいかがでしょうか。

◆教育委員会社会教育課ジオパーク推進室(両津郷土博物館内)
☎23-2101